

## 電波資源拡大のための研究開発・平成24年度追跡評価

案件名	実施期間	評価会での主なコメント
ミリ波帯高精細映像伝送技術の研究開発	H18-H21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・120 GHz帯という従来の20～30 GHz帯や60 GHz帯を大きく越える無線周波数帯の領域に新たに挑戦し、10 Gbpsで5 km以上の屋外伝送に成功し、新たなる電波資源拡大に貢献した。</li> <li>・120 GHz帯は具体的な国際標準化がまだ始まる以前の先進的・革新的技術であるが、本研究開発では放送局と共同で実証実験を進め、その商業的な有用性についてユーザの立場も含めて、十分利点があることを示した。</li> <li>・研究開発終了後にもITU-R Rep.の改定や審議会への諮問等の活動が続けられており、総合的に有益であったと評価できる。</li> </ul>
衛星通信用中継器における周波数高密度利用技術の研究開発	H18-H21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセス制御の効率化によって、衛星通信の利用周波数帯において従来より50～100倍の周波数有効利用が達成されたことは評価できる。</li> <li>・実用化という点では、主なユーザである官公庁等に対してデモンストレーションを含めた会合を行っており、実システムに向けた商談へと発展していくことが期待できる。</li> <li>・学会発表44件(海外4件)、特許5件を達成しており、センサー情報ネットワークシステムを構築する衛星通信システムに関して先進的な技術を開発したと判断される。</li> </ul>